



えだわんだより

令和6年 1月31日発行

横浜市立荇田東第一小学校

2月号

学校ホームページ



共に伸び、共に輝け、感謝・感動 しなやかえだわん

新年を迎えて

副校長 京樂 眞次

このたびの令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

被災地では、相次ぐ余震と寒さの中、不安が募る状況が続いておりますが、被災された皆様の安全と、一日も早い復興をお祈りしております。

カレンダーをめくり「立春」という文字を目にすると、時の流れの速さを感じます。2月4日は立春です。今年は昨年よりもまだ寒さが厳しいと感じる日は少ないように思いますが、寒さの本番はこれからです。インフルエンザ等の感染症が全国的に流行している現在、早寝早起きをして、朝ご飯をしっかりと食べることの重要性を家庭内で再確認していただき、子どもたちが元気に過ごすことができるよう御配慮をお願いします。

さて、私が荇田東第一小学校に着任して10か月になります。ようやく長い校名にも慣れてきました。一方、子どもたちに目を移せば、スポーツフェスタではつらつとした動きや、えだわんコンサートで他学年の発表を真剣な眼差しで鑑賞する姿等、良い面を挙げれば枚挙にいとまがありません。令和6年も、えだわんの子どもたちの良い面にたくさん触れることができることを願っています。

1月11日(木)、12日(金)には全学年が書初め会を行いました。1,2年は教室で硬筆を、3~6年は、深々と冷えた体育館で画仙紙に毛筆で書き初めをしました。書き初めの由来を調べてみると、「新年になって初めて筆と墨をつかって文字を書くこと。1月2日に行うことが多い。元旦に井戸からくんだ『若水(わかみず)』で墨をすり、めでたい文字を書いて神棚などにおさめ、書道の上達を願う。平安時代から宮中(きゅうちゅう)で行っていた行事。江戸時代に寺子屋で(てらこや)で行われるようになり広まった。」(総合百科事典ポプラディアより抜粋)とありました。また、「書き初めで書いたものをどんど焼きで燃やし、紙片が高く舞い上がるほど字が上手になる」とも言われているようです。(1月14日に荇田東まつば公園のどんど焼きに参加させていただきました。炎が高く上がる様子は圧巻でした。)

体育館での書き初めは、大変寒い中でしたが、子どもたちは、白い紙に向かい心を込めて、一文字一文字筆を進めていました。出来上がった書は、どれも新春を迎えた喜びが込められた素晴らしい作品となりました。この作品は、1月17日(火)から24日(水)の間に各教室の廊下に展示され、多くの友達や保護者の皆様に見ていただきました。

1月は行く、2月は逃げると言います。2月になったと思ったら、もう3月だというようにあっという間に過ぎて行ってしまいます。1年間の締めくくりに向けて教職員一同しっかりと子どもたちを支援していきたいと思っております。御協力よろしく申し上げます。